

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371001617		
法人名	医療法人 西口整形外科		
事業所名	グループホーム千音寺 かほりユニット		
所在地	名古屋市中川区富田町大字千音寺字間渡里2883番地		
自己評価作成日	令和3年9月29日	評価結果市町村受理日	令和4年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2371001617-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和3年11月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人らしさを大切に、自分で出来る事はなるべく続けて頂く支援を行っている。コロナウイルス感染症予防の為、ご家族の面会が制限されているが、手紙や写真、ホームだより等にて利用者様の様子をお伝えし、安心して頂ける様に努めている。又、母体が医療法人であり、医療やリハビリには力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

感染症問題が続いていることで、利用者の外出が困難になっているが、ホームの運営母体が整形外科を専門とする医療法人でもあることで、ホームの利用者の中には、医療機関で専門のリハビリを受診している方もあり、定期的にホームから併設の医療機関までリハビリで受診しており、利用者の外出の機会にもつながっている。ホーム内についても、リビング等は広めの空間が確保されており、利用者が日常的に通路を歩いて歩行訓練につなげる機会もつくり、利用者の身体機能の維持にもつなげている。職員間での連携についても、日常的に職員間で情報交換を行う時間をつくっており、職員からの意見等をホームの運営につなげる取り組みが行われている。また、ホームの建物については、ホームのフロアが建物の2階と3階にあることで、水害にも対応することができる生活環境でもある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	共有スペースに事業所理念を掲示、職員間で共有して理念に基づいた支援が出来る様に心掛けている。	ホーム開設時につくっている理念をホームの支援として考えており、ホーム内への掲示が行われている。ミーティング等を通じて職員間で理念を確認する取り組みが行われており、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	今までは地域の喫茶サロンに出掛けたり、地域の小中学校の体験学習を受け入れていたが、コロナウイルス感染予防の為、できていない。	感染症問題が続いていることで、地域の方の訪問や地域で行われている行事への参加が困難になっている。地域で行われている「ふれあいまつり」には、運営法人でも検討を行い、利用者と景品をもらいに出かける等、現状で可能な取り組みが行われている。	地域の方との交流が限られた範囲となっていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、地域の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナウイルス感染予防の為、外出の機会が減り、なかなか出来ていない。地域の「独居高齢者の鍵預かりサービスモデル事業」に協力し、地域貢献に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1度開催しているが、緊急事態宣言が発令されたときは会議を中止し、近況報告は書面やホームだよりを配布し意見を頂いている。	感染症の状況をみながら会議の開催を考えており、今年度は2回開催している。会議の際には、関連事業所の職員も参加しており、地域包括支援センター職員との情報交換等、運営に反映する機会につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議にいきいき支援センターの職員に参加して頂き、サービスの取り組みを伝えている。	市担当部署とは生活保護の方を通じた情報交換等が行われているが、現状、研修会等への参加は困難でもある。「鍵預かりサービスモデル事業」にホームも協力しており、地域包括支援センターとの協力関係や地域貢献につながる取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内の研修に参加し、身体拘束をしないケアを心掛けている。状況によるが、ユニット入り口は施錠しない様にしている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、フローアの出入り口に施錠を行わないことで、併設事業所とも連携した利用者の見守りが行われている。また、運営推進会議を通じた身体拘束に関する検討や運営法人を通じた職員研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内の研修に参加し、資料等を共有し、職員間に虐待に対する知識を持ってもらうようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在使用されている方はいないが、必要であると思われる場合は、支援できる様になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、ご家族の不安や疑問、要望等を伺い十分な説明を行い、理解、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナウイルス感染予防の為面会の制限があるが、ホームだより・写真・手紙等を一緒に送付したり、電話等でご家族様との関係を密にし、意見や要望等お聞きし、日々の生活支援に反映させる様にしている。	家族との交流は困難であるが、例年は夏祭り等の行事を通じた交流が行われている。家族からの要望等については、管理者が把握し、内容にも合わせて運営法人の幹部職員に報告している。また、ユニット毎のホーム便り(各年3回)の作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	2ヶ月に1度の職員のミーティングや、毎日の申し送り等で情報交換し、職員同士意見を共有し、運営に反映するようにしている。	2か月に1回、ユニット毎にミーティングを行い、職員間で意見交換が行われている。毎日の申し送りや職員の昼食時等に職員間で情報交換を行う時間をつくっており、職員からの意見等を管理者が把握し、ホームの運営に反映する取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	介護労働者雇用管理責任者を置き、勤務状況等を把握し、就労環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナウイルス感染症予防の為、研修に参加できていないが、法人内の研修に参加するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人内の勉強会等に参加し、情報交換している。コロナウイルス感染症の為、外部の研修には参加できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ホームでの生活や、他利用者様との関係に早くなじんでもらえる様に寄り添い、会話などをしながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	コロナウイルス感染症予防の為、面会が制限されているが、電話・手紙・ホームだより等で状況等報告し、ご家族の要望等もお聞きし、共に支援する様な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人と家族等から情報を収集し、必要としている支援を見極め、職員同士共有し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来る事はやって頂く様声掛けをし、利用者様の住まいであるホームが、過ごしやすい場になる様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族の思いや要望を聞き、利用者様が穏やかに自分らしく過ごせる場所になる様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまでの利用者様の思い出話や、ご家族の事などを話題にし、お話ししたり友人・知人からの電話等で関係が途切れない様に支援に努めている。	運営母体は整形外科を専門とする医療機関であることで、利用者の入居前からの知人や友人が医療機関への受診を通じて訪問することがあり、馴染みの方との関係継続にもつながっている。また、関連事業所を通じた身内の方との交流の機会もつづられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりが孤立しない様、家事作業やレクリエーションで利用者様同士が関わり合える様な支援に努めている。 又、定期的に席替えを行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用が終了しても、時々ホームに立ち寄って下さったり、挨拶して下さるので関係を継続していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1対1でゆっくりお話ができる時間に、日々の気持ちの聞き取り、希望・意向の把握に努めている。	日常的に職員間で情報交換を行う時間がつくられており、利用者に関する職員の気付き等の共有につなげている。2か月に1回のカンファレンスの際には、利用者全員の検討が行われており、利用者の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	折に触れて、これまでの生活歴や、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の生活状態をじっくり観察し、心身状態、有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎日の申し送り、2ヶ月に1度の全体ミーティングで、各個人別に話し合い、介護計画を立てている。	介護計画を6か月毎に見直ししながら、利用者一人ひとりに合わせた介護計画の作成が行われている。1日1ページの記録用紙の活用をはじめ、日常の情報交換や定期的なミーティング等を通じて現状確認を行い、6か月でのモニタリングにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に日報に記録し、実践・結果、気づきを共有している。 連絡ノートにも、共有したい事を記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	変化していくニーズに合わせ、スタッフ間で話し合い、ベストな対応を探りながら可能な限り柔軟な支援ができる様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	月1回の地域の喫茶サロンや小中学校の体験学習を受け入れていたが、コロナウイルス感染症予防の為、出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回内科のかかりつけ医の訪問診療があり、それ以外で健康状態に異常が見られたときは、往診等により、適切な医療を受けられる様に支援している。	ホームでは、運営母体以外の医療機関との連携が行われており、利用者の健康状態に合わせた医療面での柔軟な対応が行われている。関連事業所の看護師が利用者の健康状態等の確認を行っており、医療面での支援や協力医との連携につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	1日1回看護師の訪問があり、毎日の体調の変化や様子を報告し、異常があるときは、適切な処置や指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院関係者との情報交換や相談に努め、退院後快適に過ごして頂ける様に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重症化や終末期のあり方について、事業所でできる事を十分に説明し、主治医と家族が話し合いを行い、方針を共有して支援に取り組み、同意書も作成している。	身体状態の重い方もホームでの生活を継続できるように支援が行われており、利用者や家族の意向に合わせた支援に取り組んでいる。また、運営法人の関連の社会福祉法人で特養を開設しており、利用者の様々な状況に合わせた支援にもつながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故発生時に備え、日頃から職員同士意見交換しながら初期対応や、緊急時の連絡の確認等を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防点検業者協力のもと、定期的に設備点検・消防訓練・避難訓練等を実施している。	年2回の避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練や通報装置の確認の他にも、水害を想定した対応も行われている。非常時の地域の方の受け入れも想定しており、過去には受け入れの実績もある。また、水や食料等の備蓄品の確保も行われている。	地域の方の鍵預かりサービス事業にも協力する等、地域の方との協力関係がつけられている。非常災害に関しても地域の方との継続的な取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その人らしさを損なわない様な声掛けや対応を心掛けている。	運営理念にも掲げられている利用者の「ありのまま」を受け入れることができるように、職員間で意見交換を行いながら、利用者を尊重した対応につなげるような取り組みが行われている。また、運営法人を通じた接遇に関する職員研修も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の色々な場面において、本人の思いや希望を聞き、自己決定して頂く様促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々の流れはだいたい決まっているが、本人の体調や希望を考慮し、それぞれのペースに合わせた支援を行うよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	同じ服ばかりを着ない様に提案したり、身だしなみが整っていない時は、声掛けや手助けをしている。又、訪問理美容も活用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	介助を必要とされる利用者が多い為、一緒に食事はできていないが、片付けは能力に応じてやって頂いている。時には宅配などを利用している。	食事については、関連事業所の厨房から提供を受けており、厨房とも連携しながら利用者の身体状態に合わせたミキサー食等の対応も行われている。また、おやつ作りの他にも、外食が困難な状況の中で、テイクアウトを活用した食事の提供も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	三度の食事の他、ティータイムやおやつで栄養や水分補給は毎日確保している。自力で摂取不可な方の介助は、随時行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後必ず口腔ケアを行っている。声掛けや介助にて、できるだけ本人の力でやって頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個人の状態に応じ、声掛け、誘導、介助、確認を行い、排泄の自立を促し、支援を行っている。	利用者の排泄状態が分かるようにペンの色を変えて記録に残す等、日常的に職員間で情報交換を行い、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。また、医師、看護師との排泄に関する医療面での連携も行いながら、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	殆どの方が自然排便の為、パット確認時に排便のチェックを行うようにして、便秘気味の方にはチェック表をもとに処方された漢方を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	介護状態、体調に応じて入浴は2～3日おきに身体観察をしながら清潔を心掛け、安全で楽しく入浴して頂ける様支援している。又、リフト浴にも対応している。	利用者が週2回の午後に時間に入浴できるように支援が行われている。各ユニットに2か所の浴室が設けられており、1か所にはリフトが設置されていることで、身体状態の重い方にも対応している。また、入浴剤の活用や季節に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	その日の体調に応じ仮眠して頂き、夜間帯も温度調節を行い、安眠できる様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方された薬を2人の職員が確認をして薬箱にセットし、服薬時もう一度確認することにより服薬ミスがないように努めている。又、職員全員で受診ノートを確認し、情報を共有する様にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々にできる事を見つけ積極的に家事の手伝いしていただいている。作品作りやレク等を楽しみに行い、日々の気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナウイルス感染予防の為、外出の機会がなくなったが、敷地内にて少人数で天気、体調に気を付け散歩など行っている。	利用者の外出が困難になっているが、広い駐車場が確保されていることで、利用者が駐車場内を散歩する等、現状で可能な取り組みが行われている。また、関連の医療機関へリハビリに出かけている方もあり、定期的な外出の機会にもつながっている。	リハビリに出かけている方は一部の方でもあることで、全体的に外出の機会が限られている。今後の感染症の状況もみながら、段階的に利用者の外出が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	以前は近くのコンビニや喫茶店に出掛けていたが、今はコロナウイルス感染予防の為、買物等の外出は出来ていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望される時は、職員と一緒に外来併設の西口整形外科待合室の公衆電話を使用したり、携帯を持っている方は預かり、希望される時は使用して頂いている。 又、ご家族に手紙を書いたり支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	その月(季節)に合わせた貼り絵や塗り絵等を作成して頂き、共有スペースや居室に季節感を出す様な飾りつけをして居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホーム内は広い空間が確保され、利用者が毎日の生活をゆったりと過ごすことができる生活環境が整えられている。ホーム内の通路も長いことで、利用者の歩行訓練にもつながっている。また、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品等の掲示も行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	3ヶ月に一度席替えをしたり、全員でレク等をする時は、利用者様同士交流ができる様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人の使い慣れた家具やご家族の写真等を飾ったり、入口にはのれんをかけてプライバシーにも配慮し、居心地よく過ごせる様に工夫している。	居室には、利用者や家族の意向等に合わせた家具類の持ち込みが行われている方やシンプルな雰囲気のある居室の方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、利用者の中には、家族の写真や自身の作品等を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりのできる事を活かして、食事の片付け・洗濯干し・洗濯たたみ、又、毎朝の居室の掃除の等、自立した生活が送れる様に工夫している。		